

# 私とTransformative Agreement

2022年11月24日

尾城 孝一



# 自己紹介

# 略歴

---

- 名古屋大学附属図書館（1983.1～1988.4）
- 東京工業大学附属図書館（1988.5～2000.3）
- 国立国会図書館（2000.4～2002.3）
- 千葉大学附属図書館（2002.4～2005.3）
- 国立情報学研究所（2005.4～2009.3）
- 東京大学附属図書館（2009.4～2011.3）
- 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）事務局（2011.4～2012.3）
- 国立情報学研究所（2012.4～2015.3）
- 東京大学附属図書館（2015.4～2017.3）
- 国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター（2017.4～2022.3）
- 慶應義塾文学部非常勤講師（2020.10～2022.3）
- UniBio Press（2022.4～）

# 委員会等での活動

2009～2010	日本学術会議科学者委員会学術誌問題検討分科会委員（特任連携会員）
2013～2016	国立情報学研究所国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）の運営委員会委員
2013～2016	機関リポジトリ推進委員会委員
2015～2016	国立大学図書館協会の事務局長及び大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の運営委員会委員長
2017～2018	科学技術振興機構科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）運営アドバイザー委員会委員
2020～2021	千葉大学アカデミック・リンク・センター教育・学修支援専門職養成部門運営委員

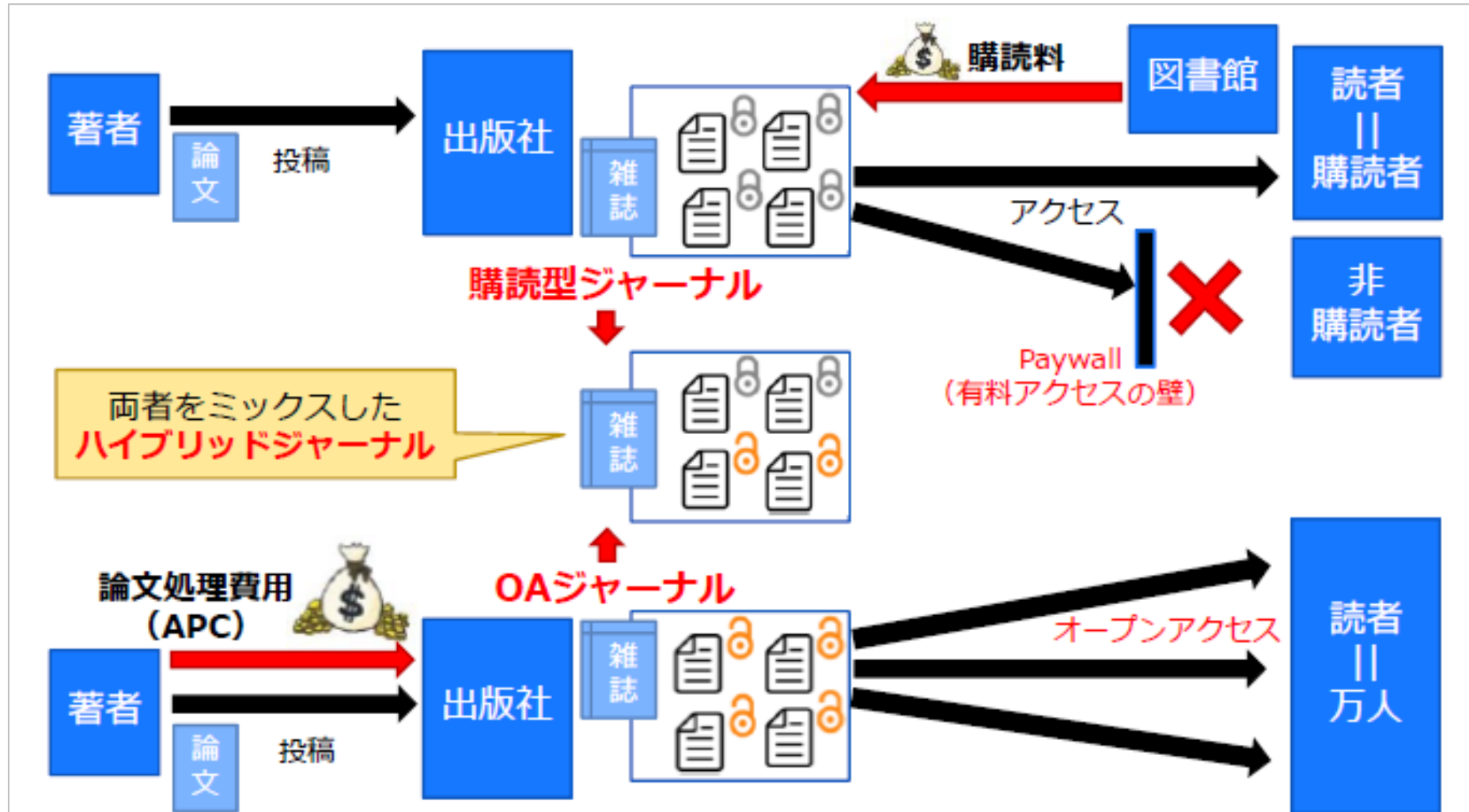
# 学術雑誌関連の活動

- 名大時代（1983.1～1988.4）
  - 外国雑誌の一括契約
- 東工大時代（1988.5～2000.3）
  - 理工学分野の外国雑誌センター
  - 外資系取次店（Swets）の導入
- 千葉大学時代（2002.4～2005.3）
  - 国大図協電子ジャーナル・タスクフォースのメンバー
  - CURATORの創設
- NII時代（2005.4～2009.3）
  - 機関リポジトリ委託事業の開始
  - SPARC Japan
- 東大時代（2009.4～2011.3）
  - 国大図協学術情報流通改革検討特別委員会の事務局
  - 学術会議の提言
  - 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の立ち上げ準備
- JUSTICE時代（2011.4～2012.3）
  - JUSTICE事務局長
- 東大時代（2015.4～2017.3）
  - JUSTICE運営委員会委員長
- NII/RCOS時代（2017.4～2022.3）
  - 研究データ管理
- UniBio Press（2022.4～）
  - 参画学会誌の電子出版支援など

復習

- オープンアクセス
  - 学術論文への障壁なきアクセスを実現するための仕組み
- グリーンOA
  - 研究者自らが自著論文をリポジトリなどに登録（セルフアーカイブ）し、無料で公開する方式
- ゴールドOA
  - 著者が論文出版料（APC: Article Processing Charge）を支払うことなどにより、ジャーナル掲載論文を無料で読めるようにする方式

# 購読型ジャーナルとOAジャーナル





# APCとは

---

学術雑誌に掲載された論文をオープンアクセスにするために著者が支払う費用のこと。APCはArticle Processing Chargeの頭文字。日本語では、「論文出版加工料」、「論文処理費用」、「論文掲載料」、「著者支払い掲載料」、「オープンアクセス出版料」など、さまざまに表現される。

Transformative Agreement  
轉換契約

# 転換契約とは

大学図書館あるいは大学図書館コンソーシアムによる、学術雑誌に係る出版社への支払いを、**購読料からオープンアクセス出版料（APC）に移行**させることを意図した契約

## 目的

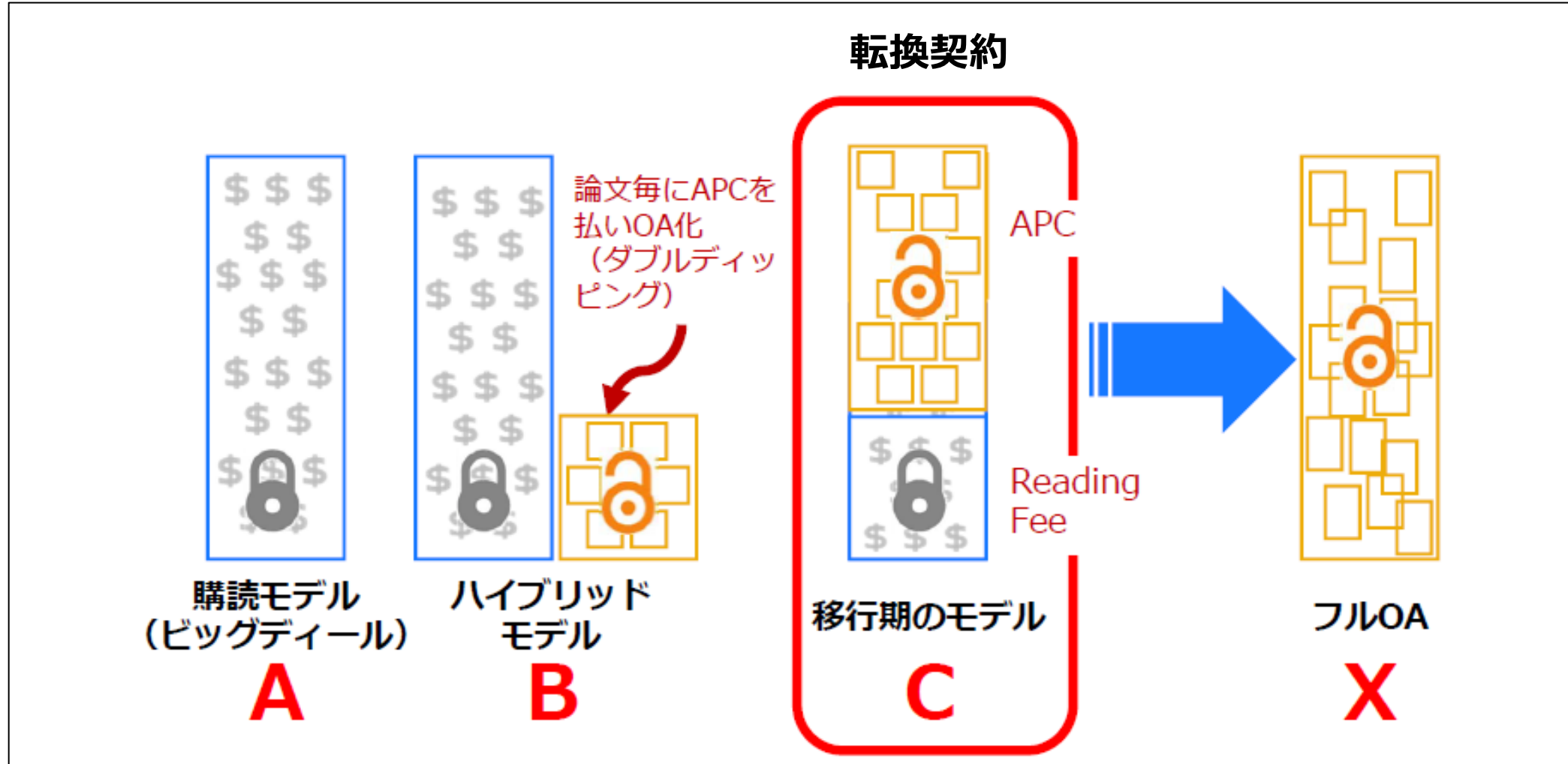
- 学術雑誌の購読料の値上げ問題を解決する（ビッグディールの代替）
- オープンアクセスを一挙に進める

尾城孝一. 学術雑誌の転換契約をめぐる動向. カレントアウェアネス. 2020, (344), CA1977, p. 10-15.

<https://current.ndl.go.jp/ca1977>

DOI: <https://doi.org/10.11501/11509687>

# 購読からフルOAへの移行



(参考) 立原ゆり. オープンアクセス契約の類型化と課題. 第9回学術コミュニケーションセミナー (月刊JPCOAR). 2022年6月15日. <https://doi.org/10.34477/0002000165>

# RAPとPAR

---

- RAP (Read and Publish)
  - 読むための料金とOA出版するための料金をひとつの契約としてまとめて出版社に支払うモデル
- PAR (Publish and Read)
  - 出版社に対してOA出版のための料金のみを支払い、追加料金無しに、OAではない論文も読むことができるという契約

# 転換契約の推進

## OA2020

- ドイツのマックスプランク・デジタルライブラリが中心となって進めているイニシヤティブ
- 購読料をOA出版料（APC）に転換することにより、全ての論文を即座にOA出版することをめざす

<https://oa2020.org/>

## cOAlition S

- 欧州の研究助成機関を中心とする連合体
- 従来の購読型のジャーナルをAPCによるOAジャーナルに転換することにより、完全にして即時のOAを求めて、**Plan S**の原則とガイドラインを公表

<https://www.coalition-s.org/>

## JUSTICEにおける転換契約の導入

# JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）

---

設立

2011年4月1日

前身

国立大学図書館協会コンソーシアム（2000年～）  
公私立大学図書館コンソーシアム（PULC）（2003年～）

目的

電子ジャーナル等の電子リソースに係る契約、管理、提供、保存、人材育成等を通じて、わが国の学術情報基盤の整備に貢献する

会員

553館（2022年10月3日現在）



# 学術雑誌の値上がりの要因

---

- 根源的要因 = コストの増大
  - 論文数の増加 (STM Report 2018によると、毎年3%増)
  - 新たなシステム開発 (電子ジャーナルの機能開発)
- 商業上の特性
  - 商品としての特殊性 (学術雑誌には代替品がない)
  - 非弾力的な需要 (費用を直接負担しない消費者の需要は過大となる)
  - 商業出版社による寡占 (大手による市場独占)

(参考) 尾城孝一, 星野雅英. 学術情報流通システムの改革を目指して - 国立大学図書館協会における取り組み -. 情報管理. 53(1), p.3-11(2010.4)  
<https://doi.org/10.1241/johokanri.53.3>

# 購読モデルの限界

- 購読者（読者）から見ると、ジャーナルは代替財ではなく**補完財**
  - 同じ分野のA誌とB誌は代替可能ではなく、互いに補完し合う関係
  - 両誌を購読しなければならない



競争原理が働かない不健全な市場形成

# ロバート・マクスウェル

---

「マクスウェルは、学術出版の市場には限界がないことを知っていた。The Journal of Nuclear Energyを作ることは、ライバル出版社であるノースホランド社の雑誌Nuclear Physicsのビジネスを奪うことにはならない。学術論文は独自の発見を発表するものであり、ある論文で他の論文を代替することはできない。もし、重要な新しい雑誌が出れば、研究者は自分の大学の図書館にその雑誌の購読を依頼する。競合他社の3倍の数の雑誌を作ったら、儲けも3倍になるということだ。」

Stephen Buranyi. Is the staggeringly profitable business of scientific publishing bad for science?

The Guardian 2017.6.27

<https://www.theguardian.com/science/2017/jun/27/profitable-business-scientific-publishing-bad-for-science>

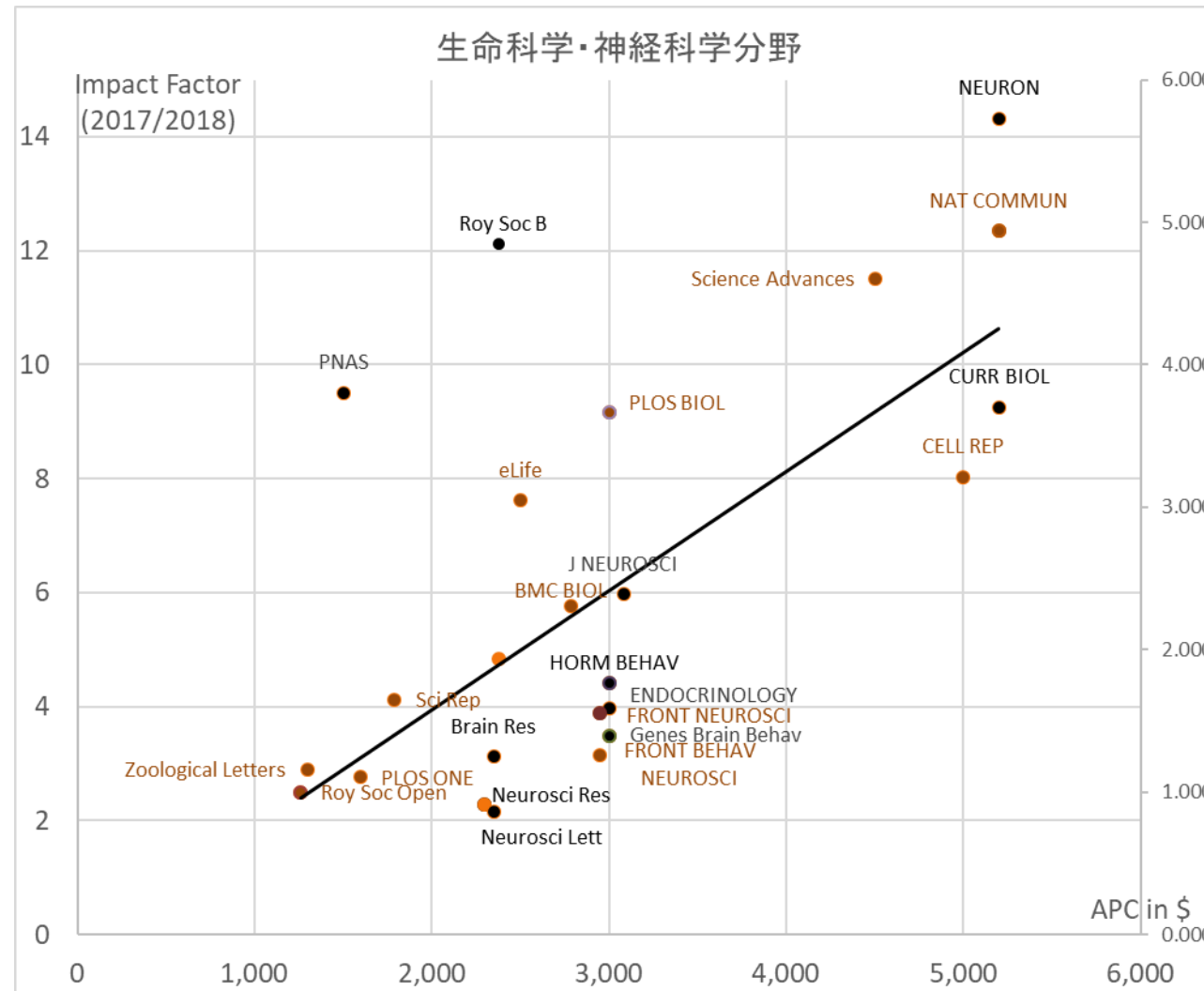
# OAモデルの可能性

- オープンアクセスのモデルでは、出版社が著者に販売するのは出版サービス
- 著者から見ると、学術雑誌というのは、補完財ではなく、**代替財**になる
- より質が高く、より出版費（APC）が安い雑誌に論文を投稿するというインセンティブが生まれる



- 出版サービスの質とAPCについて、ジャーナル（出版社）間で競争が生まれる可能性
- APCの上昇を抑え、適正な価格が維持される

# インパクトファクターとAPC



# マックスプランク・デジタルライブラリによる試算

## Worldwide Publishing Market



世界の国が歩調を合わせて、現在の購読料をAPCに振り替えれば、追加のコストを発生させることなく、200万本の論文のOA化は即座に実現でき、かつ余剰金が生まれる

『オープンアクセスへの大転換を実現するために購読型ジャーナルのビジネスモデルを破壊する』  
(2015)

Schimmer, R., Geschuhn, K. K., & Vogler, A. (2015). Disrupting the subscription journals' business model for the necessary large-scale transformation to open access. <https://hdl.handle.net/11858/00-001M-0000-0026-C274-7>

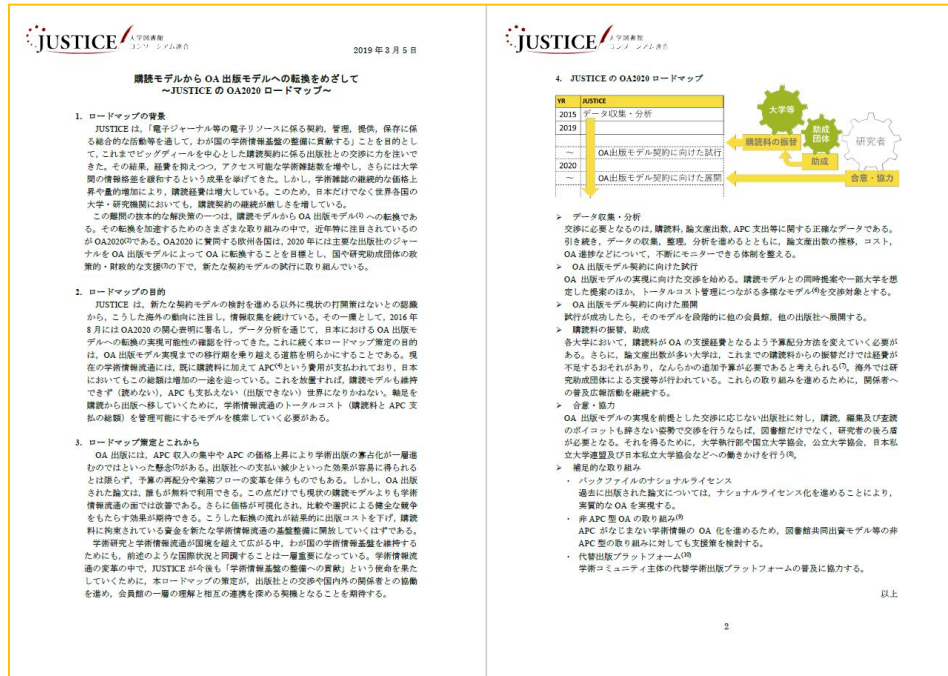
# JUSTICEの対応

---

- データ収集、分析
  - 契約状況調査（購読料の把握）
  - 論文公表実態調査（APC額の把握）
- OA2020への関心表明に署名（2016.8）
- OA2020対応検討チーム設置（2017.7）
  - Berlin会議への参加（Berlin13/14）
  - ワークショップ開催（2018.11）
  - SPARC Japanセミナー共催（2018.11）

# JUSTICEのロードマップ

## 「購読モデルからOA出版モデルへの転換をめざして ～JUSTICEのOA2020ロードマップ～」



### 目次

1. ロードマップの背景
2. ロードマップの目的
3. ロードマップ策定とこれから
4. JUSTICEのOA2020ロードマップ

### 付録:

### OA2020に関するFAQ

[https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2021-02/JUSTICE\\_OA2020roadmap-JP.pdf](https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2021-02/JUSTICE_OA2020roadmap-JP.pdf)

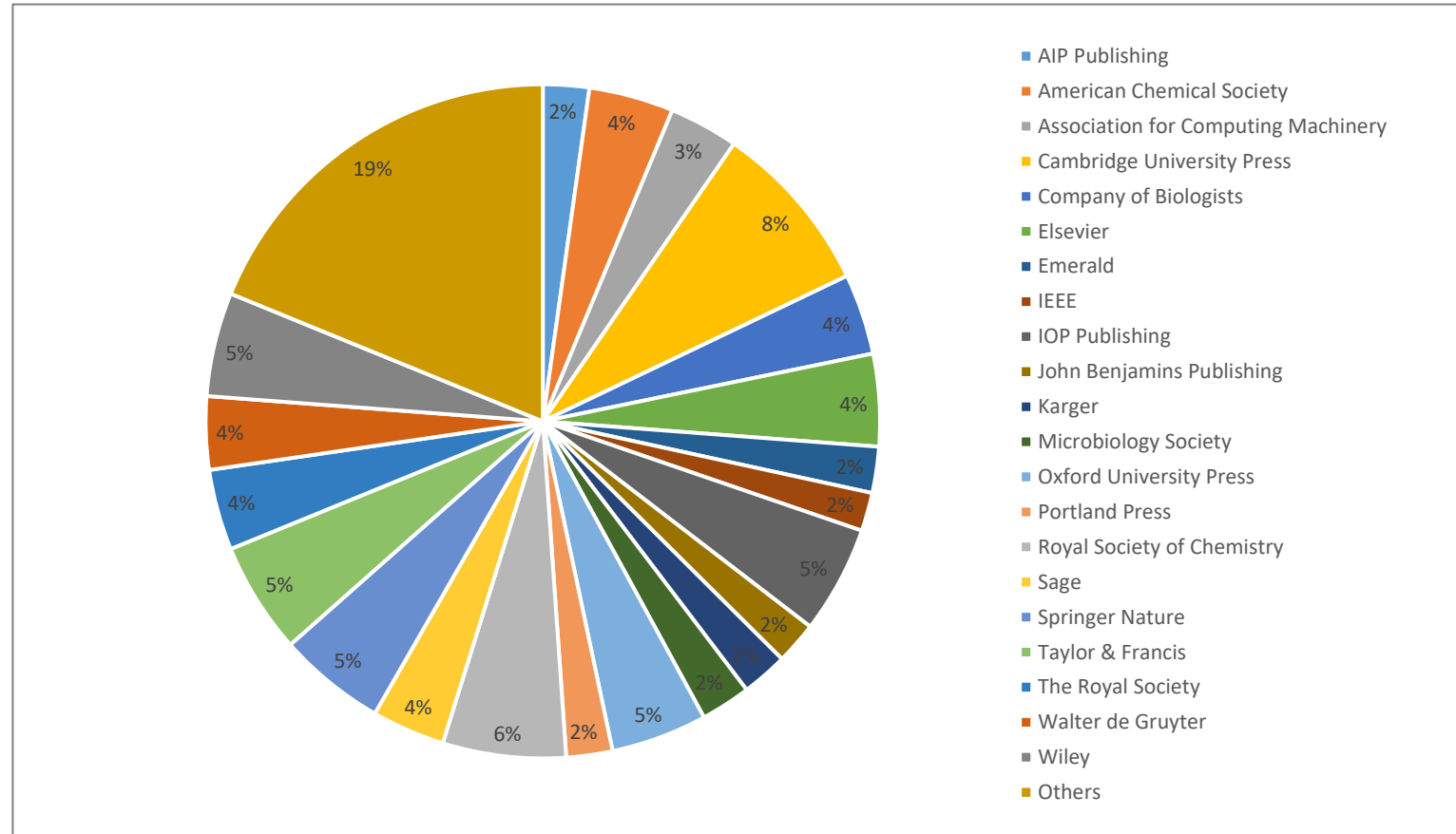
2018年度JUSTICE総会（2019年3月5日）にて、審議の結果、承認を得る



## 轉換契約の実績

# 転換契約事例数（出版社毎）

## 世界で500を超える契約

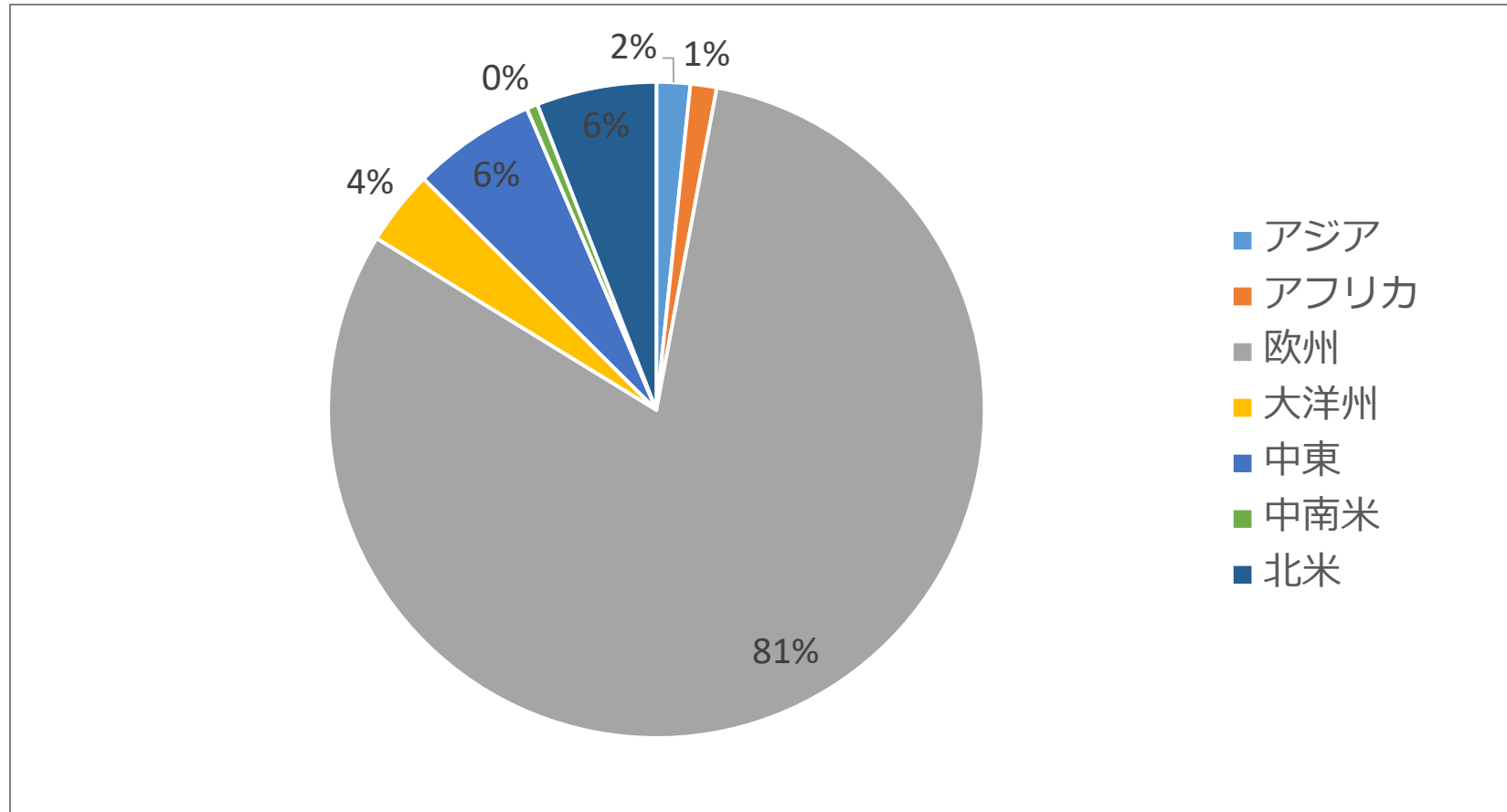


ESAC Registryのデータに基づき作成（2022年9月9日時点）

<https://esac-initiative.org/about/transformative-agreements/agreement-registry/>

# 転換契約事例数（地域毎）

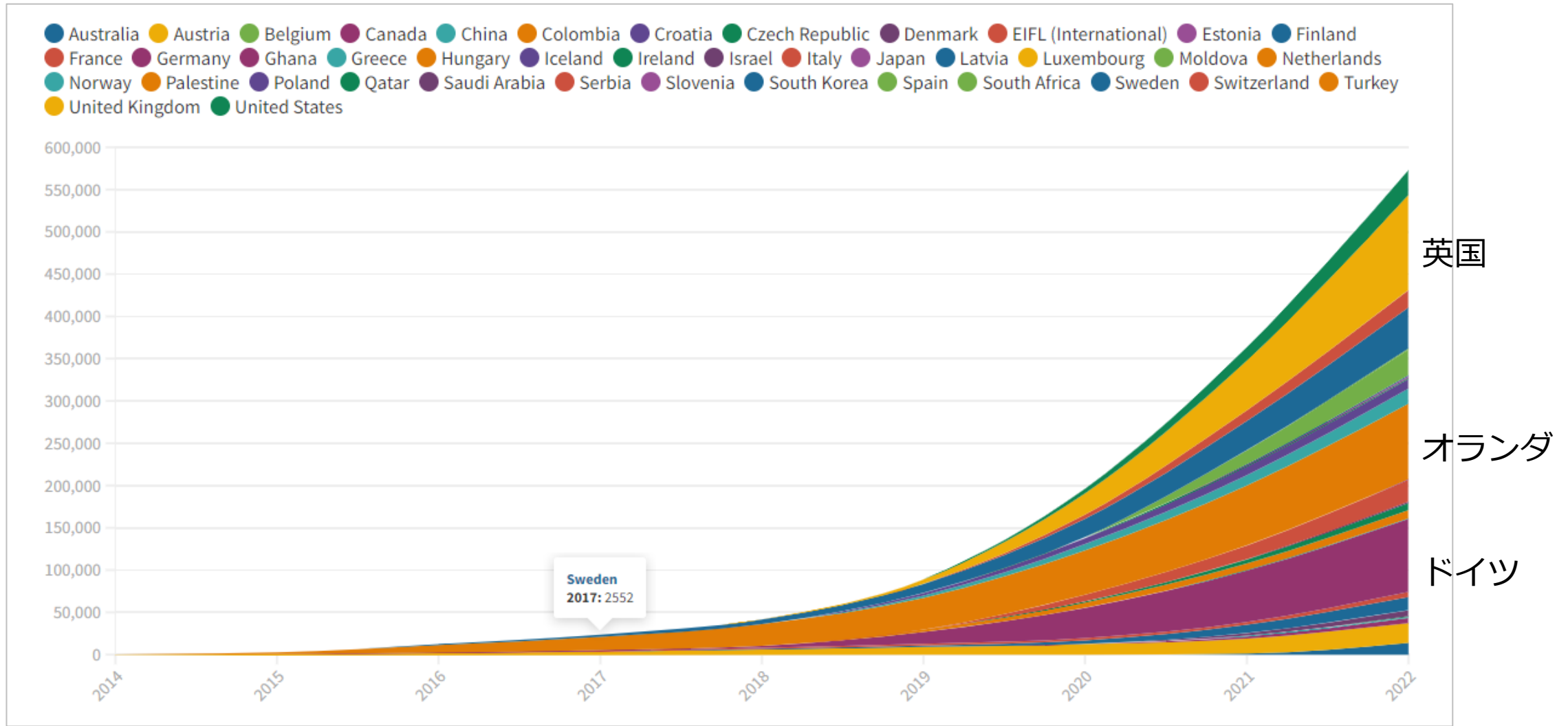
## 世界で500を超える契約



ESAC Registryのデータに基づき作成（2022年9月9日時点）

<https://esac-initiative.org/about/transformative-agreements/agreement-registry/>

# 転換契約によるOA論文数 (国別)



# 日本の事例

---

## ●Cambridge University Press

- JUSTICE（契約は個別機関）
- 2020.1.1～2022.12.31

## ●Wiley

- 東北大学、東京工業大学、総合研究大学院大学、東京理科大学
- 2022.4.1～2024.12.3

## ●Springer Nature

- 東北大学、東京大学、東京工業大学、横浜国立大学、福井大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、早稲田大学、東京理科大学
- 2023.1.1～2025.12.31

## 轉換契約の課題

# 転換契約の問題点

- Bigger Deal?
  - 移行期間は、アクセスと出版の両方に支払い
  - アクセスできる学術雑誌だけでなく、出版できる学術雑誌も大手商業出版社に独占されるのではないか
  - 中小出版社が排除
- 人文社会系の研究コミュニティやグローバルサウスの研究者からの反発
  - 助成金が得られない研究者は出版できない→アクセスの格差からパブリッシュの格差へ
- APC
  - 購読料と同様に値上がりを続けるのではないか
- バックファイルへのアクセス
  - 過去に出版された論文はOAにならない

# APCに依存しないOAモデル

---

- Subscribe to Open (S2O)
  - 図書館が払っていた購読料を利用して、購読誌をOA誌に転換しようという試み  
Annual Reviews
- 図書館共同出資モデル
  - 図書館によるクラウドファンディング
  - 図書館からの出資金によって学術書や学術誌をOA出版するモデル  
Knowledge Unlatched、Direct to Open (MIT Press)
- Pay to close
  - 厳密なオープンアクセスライセンスの下で出版すれば、APCは無料
  - 制限の厳しいライセンスを付ければ、APCは高額になる



# 転換契約に対する代替モデルとしてのR & LR

Boston, A. J. Read & Let Read: An Alternative to the Transformative Agreement. *Journal of Librarianship and Scholarly Communication*. 2021, 9(1). doi: <https://doi.org/10.31274/jlsc.12908>

- READ（読む）

- 研究機関/図書館は、前年度に機関利用者がダウンロードした論文の総数に応じて、毎年出版社に基本金額を前払いし、これに2を乗じることで、基本金額（前述のとおり）に加え、対象年度内に基本金額を超えて行われた追加ダウンロードをカバーすることができる。
- OAでない論文のダウンロード単価は0.5ドルに設定する。

- Let Read（読ませる）

- 対象年度中に機関によって消費されなかったダウンロード数は、翌年、ウェブ上の任意のユーザが無料で自由に使って、論文を読むことができる。

おわりに  
～OAは目的ではなく手段～

# BOAI (Budapest Open Access Initiative) の目的

---

Removing access barriers to this literature will accelerate research, enrich education, share the learning of the rich with the poor and the poor with the rich, make this literature as useful as it can be, and lay the foundation for uniting humanity in a common intellectual conversation and quest for knowledge.

文献へのアクセス障壁を取り除くことは、研究を加速し、教育を豊かなものとし、富める者の学術を貧しき者と、貧しき者の学術を富める者と共有し、この文献を可能な限り有用なものとし、共有された知的会話と知識の探求を行う中で人類を一体化するための基盤を築く

Read the Declaration. The Budapest Open Access Initiative  
<https://www.budapestopenaccessinitiative.org/read/>

# OAは目的ではなく手段（BOAI20 より）

We became increasingly clear that OA is not an end in itself, but a means to other ends, above all, to the equity, quality, usability, and sustainability of research. We must assess the growth of OA against the gains and losses for these further ends. We must pick strategies to grow OA that are consistent with these further ends and bring us steadily closer to their realization.

OAはそれ自体が目的ではなく、他の目的、とりわけ**研究の公平性、質、有用性、持続可能性**のための手段であることが次第に明らかになってきたのです。私たちは、これらの究極の目的に対する利益と損失を考慮に入れて、OAの成長を評価しなければなりません。そして、これらの目的に合致し、その実現に着実に近づけるようなOA化の戦略を選択しなければならないのです。

<https://www.unibiopress.org/>